

BOOK REVIEW 2

カルチュラル・コンピューティング—文化・無意識・ソフトウェアの創造力

土佐尚子 著

エヌティティ出版 ISBN-13:978-4757102613 2009年発行

評者：渡邊淳司（日本学術振興会 / NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

近年、インタラクティブ技術の発展とともに、工学の応用の場はエンタテインメント分野のみならず、芸術・文化の分野にも広がりつつある。本書のタイトルであるカルチュラル・コンピューティングとは、普段私たちが意識的にも無意識的にも従っている文化というルールを情報化し、鑑賞者がコンピュータと相互作用しながら文化を体験的に理解するという、文化をコンピュータで取り扱う新しい分野である。私たち日本人は、漢字、俳句、禅といった日本文化の中で育ち、それらの表象のフォーマット(型)に影響されながら感じ、考え、行動している。著者は、その文化のフォーマットを工学的視点から抽出するとともに、それをアーティストとして、感性を揺り動かすインタラクティブ作品のなかに実現している。

著者は、現代美術、演劇、映像表現と幅広い分野に渡って作品制作を行うメディアアーティスト、研究者である。

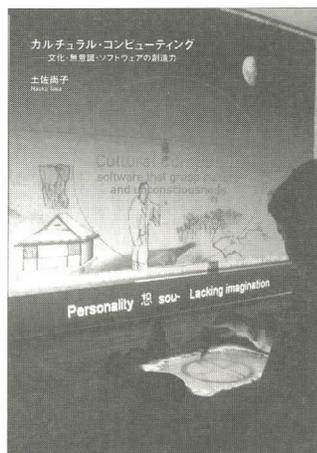
本書では、著者の活動の歴史を通じてカルチュラル・コンピューティングの概念およびその実践が紹介されている。内容は5章から構成され、序章ではコンピュータを「思考・記憶をサポートするメディア」とし、感性・物語性・民族性といった文化の本質をコンピュータで取り扱うカルチュラル・コンピューティングという新しい分野について概説している。1章は「感情をコンピューティングする」と題し、感情のコミュニケーションを目的とした作品“ニューロベイビー”について詳説している。2章は「ストーリーをコンピューティングする」と題し、ストーリーに基づきユーザを引き込む力を持つインタラクティブシステムを紹介している。具体的には、以下の三つの作品である。谷川俊太郎氏の“あなた”

を連歌にして詩を詠みあう“インタラクティブポエム”，コンピュータが漫才の突っ込みを行う“インタラクティブ漫才”，ユーザが“ロミオとジュリエット”を他のキャラクターとインタラクションしながら演じる“インタラクティブシアター”である。3章は「文化をコンピューティングする」と題し、コンピュータによる山水禅体験システム“ZENetic Computer”，日本文化の思考の型を利用した連想検索・生成システム

“i.plot”，俳句の型に着目し、季語辞書や松岡正剛氏の“千夜千冊”の文章等をもとに俳句の生成を行う“Hitch Haiku”を紹介している。4章では「文化・無意識・ソフトウェアの創造力」と題し、より深いコミュニケーションのために文化を工学的視点から扱う重要性について述べている。

インターネットに代表されるフォーマットに則った情報のやり取りは、すでに世界規模で達成されている。しかし、著者は、その単純なグローバリゼー

ションはそれぞれの文化の持つ独自性を失わせる危険性を孕み、むしろ、これからはフォーマットの異なる人間の間(異文化間)で生じる誤解やエラーを乗り越えられる深いコミュニケーションを実現するインタラクティブ性こそ重要であるとしている。また、そのインタラクティブ性は自己主張や気持ちを伝えるためだけでなく、利他的な相互作用として実現されるべきであるとも述べている。これらの主張を含め、インタラクティブ技術が成熟していくなかで、その技術がどのように社会や文化で使用され、人間の生活に意味をもたらすか示唆に富んだ本書は、アーティストだけでなく、ぜひ、研究者に読んでいただきたい。





2009年度研究委員会報告

■サイバースペースと仮想都市研究委員会

委員長 小林 稔
副委員長 渡辺喜道
幹事 磯 和之, 宇都木 契, 小川剛史

- 第36回研究会
開催日：2009年2月6日
場 所：東京大学
参加数：24名
- 第37回研究会
開催日：2009年6月10日, 11日
場 所：ホテル紫苑(岩手県盛岡市)
参加数：33名
- 第38回研究会
開催日：2009年10月8日, 9日
場 所：オホーツク・文化交流センター(北海道)
参加数：8日42名, 9日36名
- 第12回シンポジウム
テーマ：「Cyberactive Challenge」
場 所：筑波大学大塚地区(東京)
参加数：24名

活動概要

サイバースペースと仮想都市研究会では、2009年度は例年通り3回の研究会と1回のシンポジウムを開催し、最新の研究発表報告と活発な議論を行った。第36回研究会では、VR技術のロボットへの応用、ハイブリッドシティ、ウェアラブルAR、MRに関する研究など9件の発表があり、活発に議論した。第37回研究会は香りと生体情報研究会、テレイマージョン技術研究会と共催し、活発な議論を通じて参加者相互の親交を深めた。また、昨年の発表から優秀論文2件を選出し、そのうち1件についてサイバースペース研究賞を授与し、受賞者による記念講演を行った。第38回研究会は、複合現実感研究会と電子情報通信学会マルチメディア仮想環境基礎研究会と共催し北海道釧路市において開催した。2005年

に函館で始めた北海道での共催は今回で5回目となり、恒例の発表の場として定着した。また、同研究会にてもう1件のサイバースペース研究賞を授与し、受賞者による記念講演を行った。さらに、12月4日に「Cyberactive Challenge(サイバラクティブチャレンジ)」をテーマとして、第12回シンポジウムを開催した。第12回シンポジウムでは、旧来の講演会形式から実施形態を変更し、デモ付き講演によるインタラクティブなシンポジウムとして実施した。講演に引き続きデモを行うセッションの形式が奏功し、活発な議論が行われた。これらの活動を通じて、サイバースペース技術と社会・生活との接点に着目した特徴ある研究議論の場を提供するよう努めている。

■複合現実感研究委員会

委員長 竹村治雄
副委員長 加藤博一
幹事 内山晋二, 蔵田武志

- 第27回研究会&第32回研究委員会
開催日：2009年1月12日
場 所：NII
参加数：研究会 53名, 研究委員会 10名
- 第28回研究会(Korea-Japan Workshop on Mixed RealityとしてKorea HCIと共催)&第33回研究委員会
開催日：2009年5月10日, 11日
場 所：公立はこだて未来大学
参加数：研究会 27名, 研究委員会 10名
- 第14回大会オーガナイズドセッション
「AR/MRにおける幾何位置合わせ手法の現状」
開催日：2009年9月11日
場 所：早稲田大学
- 第29回研究会(電子情報通信学会MVEおよびVR学会SIG-CSと共催)&第34回研究委員会
開催日：2009年10月8日, 9日
場 所：オホーツク・文化交流センター(北海道)
参加数：研究会 42名, 研究委員会 9名